

記入例 記入前に下欄の〔注〕を必ずお読みください。

履 歴 書

No. _____

学内で旧姓等の通称利用を希望される場合は、戸籍上の姓の後に括弧書きで旧姓等を記入してください。

履歴書作成年月日

2025年4月10日現在

氏名	いづがわ たろう 今出川 太郎	性別	男・女
生年月日	1980年10月20日生	年齢	2026年4月1日現在満45歳

コメント参照

ふりがな きょうとし かみぎょうく いまでがわどおり からすまひがしいる けんぷちよう

現住所 〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地

電話 (075) 251-3220
E-mail ji-gakji@mail.doshisha.ac.jp

学歴職歴等の項目別	西暦		学 歴 ・ 職 歴	卒業・修了・退学の別	
	年	月			
学歴	自	1996	同志社高等学校 (注(2)の「満15歳以後：中学を含まない」)	卒業	
	至	1999			
学歴	自	1999	同志社大学法学部法律学科 (在学留学：〇〇大学××学部 1991年4月～1991年9月)	卒業	
	至	2003			
学歴	自	2003	同志社大学大学院法学研究科私法学専攻博士前期課程	修了	
	至	2005			
学歴	自	2005	同志社大学大学院法学研究科私法学専攻博士後期課程	退学	
	至	2008			
職歴	自	2008	同志社大学法学部助手		
	至	2011			
	自	2011			同志社大学法学部専任講師
	至	2014			
	自	2014			同志社大学法学部助教授
	至	2020			
	自	2020			同志社大学法学部教授
至	現在				
自	2015	同志社大学大学院法学研究科博士前期課程教授			
至	2021				
自	2021	同志社大学大学院法学研究科博士後期課程教授			
至	現在				

**採用予定年の4月1日

学校法人 同志社

〔注〕 (1)専任の場合、満15歳以後の学歴・職歴をもれなくご記入ください。
(2)嘱託講師の場合、大学学部卒業以後の学歴・職歴をもれなくご記入ください。

記入例

業績書

No. 1

「〇△学修士」「修士(〇△学)」の2パターンの表記があり、取得年月が1991年7月以降かどうかで表記が異なります。取得した学位を正確に記載してください。(博士も同じです)

業績書作成日

2025年4月10日現在

氏名 今出川 太郎	学位	修士(法学)	博士(法学)	Ph. D.
	取得年月	2005年 3月	2008年 3月	2016年 6月
	授与機関名	同志社大学	同志社大学	コロンビア大学

項目別	西暦 年 月	論文・著述・その他
修士論文	2005 3	論文名 例：「論文名」●●大学修士論文 ※英語表記の場合は“論文名”
博士論文	2008 3	論文名 例：「論文名」●●大学博士論文 ※英語表記の場合は“論文名”
著書(単行本) 著書(単著)	2020	5 書名、発行所名、巻号数(シリーズもの(全集、講座、叢書、双書等)の1冊である場合)、著者名、総ページ数等 例：『書名』(発行所名)、著者名、全●●頁 例：“書名”，発行所名，著者名，●●pages ※英語表記の場合 著者が1名の場合のみが該当します。担当部分が単独執筆であっても当該著書等に記載された著者が複数いる場合には、共著に分類してください。
著書(共著)		書名、発行所名、巻号数(シリーズもの(全集、講座、叢書、双書等)の1冊である場合)、著者名、(総ページ数)、本人担当部分等 例：『書名』(発行所名)共著者または監修者名等 *担当執筆箇所「第●●章 タイトル●●」(pp. ●●～●●) 例：“書名”，発行所名，共著者または監修者名等 *担当執筆箇所 第●●章，タイトル●●，pp. ●●～●● ※英語表記の場合 著者が複数の場合が該当します。担当部分が単独執筆であっても当該著書等に記載された著者が複数いる場合には、共著に分類してください。 共著の場合は、原則として本人を含めて共著者名をすべて記載し、本人担当部分が明確になるように(担当部分の章、節、題名、掲載ページ等)記載すること。 共著者多数の場合は、主な著者と本人を記載し、他○名とすることも可。
学術論文		論文名、著者名、掲載誌名、巻・号、掲載ページ等 査読付き学術論文、査読付き国際会議論文、その他の論文に区別して記載してください。

同一項目の中では、発行年の古い業績から新しい業績の順に記載してください。

単著の場合

共著の場合

例：「論文名」、著者名、『掲載誌名』巻・号、pp. ●●～●●
例：“論文名”，著者名，掲載誌名(巻・号)，pp. ●●～●● ※英語表記の場合
例：「論文名」、著者名(共著者・本人の氏名を掲載順に)、『掲載誌名』巻・号、pp. ●●～●●
例：“論文名”，著者名(共著者・本人の氏名を掲載順に)，掲載誌名(巻・号)，pp. ●●～●● ※英語表記の場合
共著の場合は、原則として共著者名をすべて記載してください。
共著者多数の場合は、主な著者と本人を記載し、他○名△番目とすることも可。

記入例は2枚目に続きます。

*学位欄に学士は記入不要です。

学校法人同志社

氏 名 今出川 太郎

項目別	西暦 年 月	論文・著述・その他
口頭発表	2020	<p>8 題名、発表者名、発表学会大会名、開催地等 <i>国際会議、国内会議に分けて記載してください</i> 例：「題名」、発表者名(○○学会第○○回大会(於○○大学)) 例：“題名”, 発表者名, ,○○学会, 第○○回大会, 於○○大学 ※英語表記の場合 共同発表の場合は、原則として共同発表者名をすべて記載してください。 共同発表者多数の場合は、主な発表者と本人を記載し、他○名△番目とすることも可。</p>
その他		<p>(業績上参考になるもの) <i>適宜区分を設けて(ポスター発表、翻訳、研究ノート、書評、教材、特許等)記載してください。辞典の項目執筆等はこの項目になります。</i> 「総説」、「学会抄録」、「依頼原稿」等にあつては当該記事のタイトルを 「ポスター発表」、「報告発表」、「座談会」、「討論」等にあつては当該テーマを記入してください。 なお、英語表記の場合“タイトル”等の表記にしてください。</p> <p>書名、発行所名、訳者名、総ページ数、原著者名、原著名等 例：『訳書名』（発行所名）、訳者名、総ページ数〔原著者名、原著タイトルなど〕 共訳の場合は、共著の場合に準じて、共訳者や本人担当部分がわかるように記載してください。なお、英語表記の場合“訳書名”等の表記にしてください。</p>

翻訳等の場合

業績書記入時点において、刊行されていないもの(近刊、印刷中)は、本業績書には記載できませんので、ご注意ください。

提出前チェックシート

履歴書・業績書作成後の確認用として適宜、ご利用ください。なお、このシートの提出は不要です。

【履歴書】

- 1 ふりがなの記載漏れはありませんか？
- 2 年齢は、採用予定の日付に対応していますか？
- 3 学歴は、満15歳以降で記載されていますか？
- 4 卒業・修了・退学に記載漏れはありませんか？
- 5 休学期間がある場合、その期間が記載されていますか？

【業績書】

～学位～

- 6 学位名が修士(〇〇学)や△△学修士など正しく記載されていますか？
※1991年7月以降に日本の大学で学位を取得した場合は、修士(〇〇学)という表記となります。
- 7 学位取得年月日と履歴書の学歴に記載した課程修了の日付が合致していますか？(但し、異なる場合もあります。)

～論文・著述・その他～

- 8 修士論文から記載されていますか？
- 9 項目別に時系列に記載されていますか？
- 10 論文等のページ数を「p」で記載する場合、1ページの場合は、「p.〇」、複数ページの場合「pp.1～10」のように記載されていますか？
- 11 出力した際に文字が正しく表示されていない箇所はありませんか？
- 12 記載された業績は、業績書作成日時点においてすべて刊行されていますか？
(刊行されていないもの(近刊、印刷中など)は本業績書に記載できません。)